



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 地球 1925, 3(1)

ISSUE DATE:

1925-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/182815>

RIGHT:

地球

大正十四年
六月

第三卷

地球 第三卷 總目錄 大正十四年一月—六月

圖版及寫眞版

第一版	伊太利グロッタ・アツルラ（琅玕洞）	（第一號）
第二版	綠州ヌグスアク半島及リーデンベンク	（第一號）
第三版	蘇格蘭、米國及鳥取縣海岸の砂丘	（第一號）
第四版	叢石亭及七ツ釜の玄武岩柱狀節理	（第一號）
第五版	天橋立と松島	（第一號）
第六版	ポートサイドとスエズ運河	（第二號）
第七版	田倉火山と小倉石切場	（第三號）
第八版	田倉火山地質圖	（第三號）
第九版	朝鮮人口分布圖	（第四號）
第十版	ドーバー・グランヴェキル船渠と空中より見たるナイヤガラ瀑布	（第五號）
第十一版	遠江掛川附近地質圖	（第六號）
卷頭辭		（第一號）
海岸に就いて	小川 琢治	一
博多灣の海岸線	中山平治郎	二六

史前時代以來上總東南海岸の昇降に就きて……………

山崎直方……………七四

先志摩の海岸地形……………

辻村太郎……………五

三浦半島の海岸に就いて……………

青木廉二郎……………一〇一

砂丘と植物……………

郡場寛……………一二

海岸の動物……………

川村多實二……………一三六

黄海の海岸……………

藤田元春……………一三八

最近に於ける北陸海岸線の移動……………

小牧實繁……………一五九

私の見た地中海の沿岸……………

濱田青陵……………一六九

日本海々岸に於ける砂丘上の遺跡……………

梅原末治……………一七六

越前東尋坊……………

比企忠……………一八七

九州海岸の奇勝……………

石川成章……………一九二

星ヶ浦命名の由來と滿洲地名考……………

木戸忠太郎……………二〇一

海陸境界地帯の名稱に就て……………

T. U. 生……………二〇六

一時的港市に就て……………

西龜正夫……………二〇八

渥美、知多半島と其海岸……………

石川成章……………二二一

日本の海岸に於ける貝類……………

黒田徳米……………二二九

海岸と有孔虫……………

……………三三五

出雲の冲積地海岸……………小牧實繁……………二二七

地理教材としての地形圖……………(六)久能山三保松原
(七)多摩川中流松原
(八)平壤美の南島
(九)甲山長津高原の南端
(十)松本近縁……………二三四
二九四
四六四
四六二
六二五

濱邊つたひの道草……………如舟老人……………二二七

刀劔の地理學的研究……………第三稿
近畿地方の鐵工業
中國地方の鐵工業……………二五三
四三二
五九一
五九八

米國の貿易に就て……………下田禮佐……………二六六

諏訪盆地の地質構造に關する知識……………本間不二男……………二七五

南部阿武隈山脈の地形考察……………望月勝海……………二八〇

渡 歐 日 記……………(六)亞細亞沿岸を横りて
(七)蘇土域及紀行
(八)地中海を記して
(九)ビスケーを記して……………三七八
三七八
四三九
四三八

丹波田倉山火山……………上治寅次郎……………三六六

米國の亞細亞遠征の成績と今後の計劃(オスボーン)……………三六五

中世回教徒の地理學(カールシヨイ)……………三七〇
五三六

朝鮮の人口と其の分布……………中村新太郎……………四二三

黑鑛々床と角稜質包裹物……………木下龜城……………四五〇

第二回萬國測地學及地球物理學協會總會に現はれた重な問題……………松山基範……………四九一

日本紅簾片岩の成因……………小川琢治……………五〇三

荒川鑛産アンケライト(菱鐵灰鑛)に就て	川井景吉	五〇
小佛古生層の時代如何	江原眞伍	五二
遠江掛川附近第三紀層の層序	槇山次郎	五九
山陰道特に鳥取縣の溫泉に就て	石川成章	五七
阿波國勝浦郡羽ノ浦町附近のオルビトリナ石灰岩とイノセラムス層	江原眞伍	六〇七
日本近海の深さ(一)		六〇九
北樺太採集記(上)	玉貫光一	六〇
但北地震概報	小川琢治	六五六
談 叢		
支那小説の地理	如舟老人	二九七
水滸傳の地理	如舟老人	三三八
<div> <div> (四) 雜 (三) 支那 (二) 輪廓 (一) 刀車馬觀 </div> </div>	<div> <div> (四) 雜 (三) 支那 (二) 輪廓 (一) 刀車馬觀 </div> </div>	<div> <div> (四) 雜 (三) 支那 (二) 輪廓 (一) 刀車馬觀 </div> </div>
地球を構成する物質と其の分布	松原厚	三〇一

三〇一
四七二
五五一
六三二

三三八
四七二
五五一
六三二

雜報

朝鮮の西南海岸	二五
朝鮮の海岸線の長さ	一〇〇
上海港の浚渫	一五八
朝鮮叢石亭の海岸(一號圖版説明)	一六八
天の橋立(同)	二〇〇
松島(同)	二二〇
太平洋航路に於ける日本船	二四九
海底火山の爆發	二四九
大阪築港北突堤外埋立	二五〇
墨國自由港開設	二五〇
コロンボ港の浚渫	二五一
フィリッピン群島コランブガン港の概要	二五一
北米海岸測地局に於ける水學に關する調査要目	二五二
一九二二年度の米國の貿易高	二七四
大正十二年本邦重要港灣入港船舶	二九四
日本内地の大正十三年推計人口	三三三
横黒線の全通	三三八
本邦在留支那人の狀態	三三九
本邦農産物の總價額	三三〇
スエズ運河の掘下	三三二
印度の國勢調査	三三一
山東の牛	三三一
蒙古牛	三三二

濠洲羊毛と本邦船	三三三
地理科本試験問題(第四十一回)	三三三
山崎博士よりの來信(大正十三年十二月十二日)	三三三
文學に現れた地理學	三六九
世界の石油産額(大正十二年及同十一年)	三七六
パナマ運河開通十年	三八一
西村教授の計	三六六
第二號の正誤	四〇二
試錐に因る間歇溫泉	四〇三
温州港の近況	四〇四
海防港の近況	四〇四
雲南の錫	四〇五
世界の綿花栽培	四〇五
オルモス大灌漑工事	四〇六
山東の落花生	四〇六
海軍水路部より小川博士へ	四〇六
日本近海の深さの圖	四二
大阪の面積と人口	四六九
東シベリアの金産地	四八三
北樺太の油田	四八三
波斯灣航路設定	四八三
比津賓の製糖業	四八三
加奈陀の楓糖	四八四
伊能忠敬の測量に關する御觸書	四八四

空中より見たナイアガラ瀑布(第十版下圖)(説明).....	五二六
第二回地球講習會概況.....	五四八
軍艦滿洲の海洋測量.....	五六一
世界に於ける生絲.....	五六二
アビシニア事情.....	五六三
東京地學協會長徳川頼倫侯の薨去.....	六三三
地球學園岡山支部發會式.....	六四七
鉛山鑛山と湯崎溫泉.....	六四七
白領コンゴの國立公園.....	六四九
北米大西洋岸陸棚の傾起.....	六四九
佛領印度支那の開發.....	六五〇
世界羊毛産額.....	六五一
雲母の用途.....	六五二
新刊紹介	
人類學及人種學上より見たる北東亞細亞.....	三三三
朝鮮部落調査報告第一冊.....	三三四
地理教材研究第五輯.....	三三四
日本地圖帖.....	四〇七
自然地理學概論.....	四〇八
東京地質調査第一回報告.....	四〇八
半歳で世界一周.....	四〇九
理科年表.....	四八五
郷土會記錄.....	五六四
日本國誌資料叢書.....	五六五

質疑應答

華洛古地圖集.....	五六五
武藏野及其有史以前.....	五六五
雷雨發現と等壓線型の關係に就て.....	五六六
最新鑛業智識.....	六五三
太田吉岡村誌.....	六五四
質疑應答	
山西省の自然地理.....	三三四
西印度諸島の成因.....	三七
大環圖法に依る地圖上に於ける二地點間の最短距離.....	三六
地球儀上にて最短距離を測る方法.....	三六
比律賓の住民(文檢問題).....	四〇九
川邊特別區域(同).....	四二一
ドアルゲヤ(同).....	四二一
ヨーロッパ運河網.....	四八六
日本、印度、シベリヤに於ける全年の氣溫の變化.....	四八六
濠太利亞大陸の内地が沙漠、草地をなす原因.....	四八九
北海道噴火灣の成因.....	四八九
京兆及特別區域.....	四八九
能登半島の成因.....	五六六
錫蘭島の住民.....	五六六
小亞細亞地方の産業.....	五六八
世界に於ける小麥主要産地と消費地.....	六五四
登山に關する注意事項.....	六五六
ゴンドワナランド.....	六五七
地形の良く分かる外國地圖.....	六五七

海 岸 號 地 球

第三卷第一號

大正十四年一月一日發行

主 要 目 次

圖版

- 第一、伊太利ケロツタツツレ (環洞洞)
- 第二、綠州メグサク及ライテ
- 第三、蘇格蘭、米國及鳥取縣の砂丘
- 第四、磐石亭及七ツ釜の玄武岩柱狀節理
- 第五、天橋立と松島

- 海岸に就いて.....小川 琢治
- 博多灣の海岸線.....中山 平次郎
- 史前時代以來上總東海岸の奇蹟に就いて.....方
- 先志摩の海岸.....山崎 直方
- 三浦半島の海岸に就きて.....山崎 直方
- 砂丘と梅吻.....山崎 直方
- 海岸の動物.....山崎 直方
- 最近に於ける北陸海岸線の移動.....山崎 直方
- 私の見た地中海の沿岸.....山崎 直方
- 日本海々岸に於ける砂丘.....山崎 直方
- 越前東尋坊.....山崎 直方
- 九州海岸の奇勝.....山崎 直方
- 星ヶ浦命名の由來と滿洲地名考.....山崎 直方

京 都 帝 國 大 學 理 學 部

地 質 學 教 室 內

地 球 學 圖

第三卷二月號像告

地文及人文地理學上より觀たる九州西北部

理學博士

小川 琢治

諏訪湖に關する智識

理學士

本間不二男

丹波田倉山火山

文學士

上治寅次郎

明代海運の主要中心と導線

文學士

藤田 元春

地政策力野としての諸地中海

文學士

寺田 貞次

渡歐日記(第六信)

文學士

寺田 貞次

地理教材としての地形圖(七)

談 叢

旅行家の寫眞失敗

理學博士

小川 琢治

講 話

地球を構成する物質狀態と分布について

理學博士

松 原 厚

雜 報

新刊紹介

質疑應答(文檢擬答)

卷 頭 辭

「地球」創刊以來早くも一年を経過して、今や第二年を迎ふることゝなつた。發刊の際に江湖の同志を求めた所が、我等同人と感念に二する多數の人士に支持されて、案するよりは易々希望を實現し得たのは、まさに喜ばしかつた。

昨年上半年の間は大震災に關する研究を發表するに急にして、廣汎なる地學の範圍に渉るに暇なく、後半期に入るに及んで試に溫泉國たる日本の受くる天惠を主題として溫泉號を公にせんとし、幸に諸大家の協力を得たので材料の豊富な一大冊を成し、又た新に地理教材として地形圖を利用する端緒をも啓いた。

地球學園を組織するに當つて目的の一とした智識を交換し親睦を圖る團員の集合は年末に迫つて漸く之を實現し、最初の試みとして地圖實習を主眼とした講習會を兼ね、團員百三十餘名の參同を得北海道朝鮮等の遠方からまでも來會せらるゝ盛況を呈したのは實に豫期以上の成功であつた。本年も三四月の間に主題を内外地方誌として第二回講習會を開きたい希望で二月號には要目を發表する積である。

第一年の成績を回顧して當初に懷挹した計畫も希望も殆んど一々も實現し得なんだことは編輯の局に當る同人の熱心なる同志各位に對して慚愧たらざるを得ぬ所であるが、我々の呼號した所の反響が未だ應ぜられずして、我々の希望した各地方の團員から供給さるゝ材料が極めて鮮少なことも豫期に添はぬ一因たるは

疑を容れぬのである。これは時の問題で發刊日なほ浅いことから免れぬ所として姑く忍ぶの外はあるまい。
我が「地球」は今やなほ搖籃を出でぬ状態に在つて、世間の風波は容赦なく吹き荒さみ、發刊を計畫した一
昨年末よりも陰惡を加へつゝあるから、我々同人は團員各位と共に奮勵して加圖者の増加を計り、健全な發
育を遂げさせたい。

大正十四年一月

脇水鐵五郎

山崎直方

佐藤傳藏

小川琢治

中目覺

石橋五郎

神津淑祐

中村新太郎

地球

第三卷 第一號

海岸號

地球 第三卷 第一號 海岸 號

目次

圖版 1 伊太利グロツタアツツルラ(琅玕洞)

2 綠州ヌグスアク半島及リーデンベンク

3 蘇格蘭・米國及鳥取縣の海岸の砂丘

4 叢石亭及七ツ釜の玄武岩柱狀節理

5 天橋立と松島

海岸に就いて……………理學博士 小川 琢 治……………二

博多灣の海岸線……………醫學博士 中山 平 次 郎……………二六

史前時代以來上總東南海岸の昇降に就きて……………理學博士 山 崎 直 方……………二四

先志摩の海岸地形……………理學士 辻 村 太 郎……………二五

三浦半島の海岸に就いて……………理學士 青 木 廉 二 郎……………二〇

砂丘と植物……………理學博士 郡 場 寛……………二三

海岸の動物……………理學士 川 村 多 實 二……………二六

黃海の海岸……………文學士 藤 田 元 春……………二六

最近に於ける北陸海岸線の移動	文學士	小牧實繁	一五
私の見た地中海の沿岸	文學博士	濱田青陵	一六
日本海々岸に於ける砂丘上の遺跡		梅原末治	一七
越前東尋坊	工學博士	比企忠	一七
九州海岸の奇勝	理學士	石川成章	一九
星ヶ浦命名の由來と滿洲地名考	理學士	木戸忠太郎	二〇
海陸境界地帯の名稱に就て		T U 生	二〇
一時的港市に就て		西龜正夫	二〇
渥美・知多半島と其海岸	理學士	石川成章	二一
日本の海岸に於ける貝類		黒田德米	二九
海岸と有孔虫			三五
出雲の冲積地海岸		小牧實繁	三七
地理教材としての地形圖(六)久能山と三保松原			三四
濱邊つたひの道草		如舟老人	三七

太平洋航路に於ける日本船○海底火山の爆發○大阪築港北突堤外埋立○墨國自由港開設○コロソ港の浚渫○フィリッピン群島コランブガン港の概要○北米海岸測地局に於ける水學に關する調査要目

前號要目

圖版 第十四 溫泉火山寬政熔岩流の末端(千本木)

地文及人文學上より觀たる九州西北部(中).....理學博士 小川 琢治

黑鑛々床中の螢石に就て.....理學士 木下 龜城

富江熔岩墜道の研究.....川 原 厂

朝鮮陸橋(トラウツ).....

西方亞細亞に於ける新興諸國.....

渡 歐 日 記(第五信).....文學士 寺 田 貞 次

地理教材としての地形圖(五).....佐倉近傍.....

講 話

地球の生れるまで(十).....理學博士 松 山 基 範

雜 報

新刊紹介

質疑應答

地球學團規約

- 第一條 本學團は地球學團といふ。
- 第二條 本學團は地球に關する學術的研究を進め兼て同好の士の親睦をはかるを目的とする。
- 第三條 事務所は京都市白川追分町京都帝國大學地質學教室内に置く、又會員が多い地方には支部を置く事がある。
- 第四條 本學團の事業は次の如くである
 一 雜誌並に圖書の刊行
 二 講演並に講習會の開催
 三 實地見學の指導
- 第五條 本學團員は地球購讀費として一年分六圓又は半年分三圓を發行所へ前納すること。
- 第六條 本學團員になりた人は、住所職業氏名を申込み、同時に地球購讀費半年分以上を發行所へ送金する事。
- 第七條 學團を脱退しやうとする者は、其の旨を學團に通知すること。

註文規定

- 團員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關し、件は内外出版株式會社へ御申込下され度候。
- 本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候。
- 振替貯金にて御送金は(振替大阪三二九五番三九三一番東京三九三一番)内外出版株式會社宛に願上候。
- 前金切れの場合に帶封し「前金切」の印章押捺致すべきに付直に御拂込下され度候。
- 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候。

價定

一冊	定價金五十錢	郵稅金貳錢
六冊(前金)	定價金參圓	郵稅不申受
十二冊(前金)	定價金六圓	郵稅不申受

廣告料

一頁 金五拾圓 半頁は取扱不申

大正十三年十二月廿五日印刷納本
大正十四年一月一日發行

第三卷 第一號

不許複製

禁轉載

編輯者 京都帝國大學理學部 地質學教室內 地球學團
 右代表者 藤田 元 春
 發行者 大谷 仁 兵 衛
 印刷者 須磨 勘 兵 衛
 印刷所 京都市西洞院通七條南入 内外出版株式會社印刷部

發行所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版株式會社

振替口座 大阪三二九五番 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南
 出張所 京都市京橋區加賀町十番地
 販賣所 京都市神田區錦町一ノ十九

内外出版株式會社

賣捌所

(東京) 東京屋 北隆館
 (大阪) 盛文館
 (神戸) 實文館
 (京都) 共盛社
 (名古屋) マガジン
 川瀬書店
 川瀬盛進社
 三誠堂
 大瀨文堂
 川瀨盛進社

CHIKYŪ-THE GLOBE

Vol. III. No. 1. Sea-Shore Number January, 1925.

- Pl. I. Grotta Azzurra, Italy.
 Pl. II. Coast at Nugsak and Ritenbenk, Greenland.
 Pl. III. Sand-dunes in Scotland, United States of America
 and Tottori-ken Japan.
 Pl. IV. Basalt at Sōkekitei, Korea and Nanatsugama, Hizen.
 Pl. V. Amanohashidate, Tango and Matsushima, Rikuzen.

T. Ogawa : On Coasts.....	1
H. Nakayama : Coast-line in Hakata-Bay, Chikuzen.....	26
N. Yamasaki : Upheaval of the South-eastern Coast of Kazusa since Pre-historic Age.....	74
T. Tsujimura : Sea-Coast of Sakishima, Shima.....	85
R. Aoki : Sea-Shore of Miura Peninsula.....	101
K. Kōriba : Sand-dune and Vegetation.....	112
T. Kawamura : Animal Life at Sea-Shore.....	126
S. Komaki : Recent shifting of the Coast-line in Sa-in-dō.....	159
S. Umehara : Pre-historic Remains along the Japan Sea.....	176
T. Hiki : Tojimbō, Echizen.....	187
S. Ishikawa : Scenery of the Coast of Kiūshū.....	191
C. Kido : Origin of the name of Hoshigaura, and geographical Terms in Manchuria.....	201
etc. etc. etc.	

Chikyū Gakudan

Kyōto